♪「55 アコーディオンサークル創立 20 周年記念発表会」ぶらり訪問記♪

日時　2011年11月23日(水・祝) 14:00～
会場　江東区文化センター3階　視聴覚室

まず、受付で頂いたプログラムがとてもしっかりしているので感心しました。20 周年記念ということもあってのことでしょうか、発表会は 7 回目で、前回が 2006 年とプログラムにあるので、5 年ぶりの発表会になるようです。

サークルの挨拶に始まり、演奏者一人ひとりの曲への想いを交えた曲の紹介、また、スタッフの紹介が丁寧に印刷されて挟み込んであります。プログラムを見ただけでこの発表会へのサークルの想いが伝わってきました。

演奏は、会場全体に柔らかい上品な音色がゆったりと流れていました。特別思い切りジャバラを引っ張って大きな音をつくらなくても、ちょっとした力の入れ方抜き方で音の変化が生まれることがよくわかりました。

58 年前に姉と姉の夫と一緒に見た映画「リンゴ園の少女」の中で主演の美空ひばりが歌っていたという「津軽のふるさと」の演奏は、フレーズの途中で切り返さないようにと写真のようにジャバラを一杯に使った丁寧な演奏で気持ちが伝わってきます。

40 年前、青春の闇と影の中で揺れていた頃この曲と出合い「苦しいときは青く晴れた空を想い耐えて行こう」という歌詞に衝撃を受け、以来、自分自身の応援歌としてきたという「おお我が人生」も、曲全体がとてもよく流れていて気持ちの伝わる演奏でした。

昨年、関東アコで取材をして機関紙に紹介したことのある松川氏の演奏は、取材当時『キラキラ星変奏曲』に取り組んでいると話していたので筆者も本番を心待ちにしていました。ハンディを感じさせない演奏に改めて感心しました。講師の先生によると、音に対しては彼が一番正確だとおっしゃっていました。彼は、今回ハーモニカとのアンサンブルにも挑戦しました。

友情出演では「ニーブイカーブイ」(沖縄の言葉で、うとうとした状態を表すそうです)による八重山の民謡(写真は目出度節～繁昌節の様子)他 2 曲演奏、久しぶりに三線を生で聞きました。

石播労働者合唱団による「つくしんぼ」、「見上げてごらん夜の星を」は、男性コーラスなのにとても柔らかく押さえたハーモニーで聞かせていました。

第 1 部で 7 名が独奏、合奏(3 曲)を演奏。第 2 部はアンサンブル、友情出演でした。最後に二人の講師演奏もあって楽しめた演奏会でした。下の写真はアンコールで、ゲストも入り「北国の春」を演奏の様子。　　(乙津:記)